

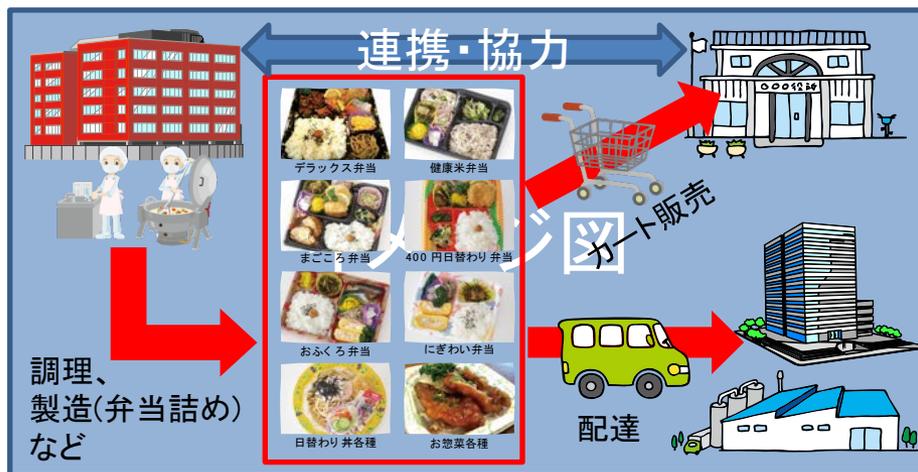
カテゴリ【4】企業・企業団体との連携

【自分にできること、ひとつでも多く】

— 関係団体と連携した販売促進を図り高い工賃を —

Point

- 地域の中で関係団体との連携による販売促進
- 利用者の能力を信じて任せることによる効果
- 効率の良い営業スタイルやアイデアを現実に



事業実施のきっかけ、経緯

- 運営母体の社会福祉法人ユーアイ村は、もともと水戸市役所の障害福祉課長を務めていた高橋康暉氏（現・理事長）が早期退職してグループホームを設立したのがそもそもの始まりです。
- グループホームに入居した利用者（障害者）の働き場所を確保するために「ユーアイ工房（現・ユーアイキッチン）」を開設しました。

事業概要

- 障害者の就労支援施設として、消費者視点に立ったお弁当（防腐剤や添加物なし）やお惣菜の製造・販売を行っています。
- 利用者は個別の役割をもって仕事をしており、主に調理補助や製造（弁当詰め）、配達、販売（店頭・デリバリー）、レジ業務を担当しています。
- 販売先は県総合福祉会館内の各事業所、近隣企業への配達、県庁舎2階売店「福祉ショップまごころ」での県職員向け弁当、行事等の予約弁当の販売です。

成果

- 自分の働くフロアまで手づくり弁当を届けていくランチデリバリーサービスを始めたことにより県職員の心を掴み、配食数は徐々に増えていった。また、コミュニケーションの充実を図ることで、潜在顧客の把握につながった。
- 過去の販売実績の統計データを取るとともに、県庁のお客様からイベント等の情報収集に努めることにより販売数の安定化につながった。また、割り箸袋の裏面にアンケートを実施し、商品や調理方法等サービスの改善が図られた。
- 事業所向けの配食弁当に特化し、「時間」をランチタイムに「商圈」をクルマで10分圏内に集中させたことで、極めて営業効率がよくなった。

今後の展望

- 利用者たちが立派に巣立っていくこと。
- 働く場所がないから選ばれる施設ではなく“ユーアイキッチンで働きたい”と心から望まれる施設にすること。
- さらに工夫や効率化を図り、販売促進やもっと良いものを作り、売上を伸ばして高い工賃を目指していく。



事業所より一言

ユーアイキッチンが大切にしていることは、障害をもつスタッフが働く喜びを感じられること。お客様から「ありがとう」と言われること、職場では個別の役割があり必要とされる存在であること、仕事を通して誰かの役に立っている実感があること、だからこそ責任を持って仕事に取り組むことができます。障害をもっているも社会の一員として当たり前に関わるからこそ、得られる喜びです。

本事例の事業所紹介



社会福祉法人 ユーアイ村
ユーアイキッチン

〒310-0851

茨城県水戸市千波町1918

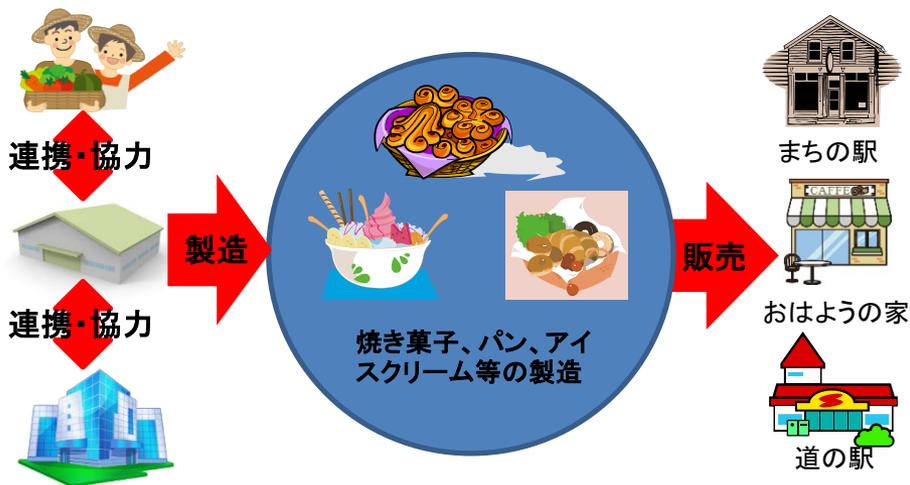
茨城県総合福祉会館1階

TEL 029-212-3775 FAX 029-212-3776

【「加工品開発」に仲間たちと挑戦】

Point

- 地域の6次産業化に向けた取り組み。
- 農業者と連携した商品開発。
- 自主生産の商品力強化。



事業実施のきっかけ、経緯

- えいぶるの里は、9年間の小規模作業所を経て、2003年4月に通所授産施設としてスタートしました。現在は、60名（生活介護事業就労継続B型事業）と日中支援事業50名の障がいをもつ方々が利用しています。授産科目として、焼菓子・パン・EMボカシの自主製品づくり、さらに4年前からは、アイススクリームを本格的に始めました。
- 農援団（県内若手農業者グループ）代表亀田さん達から「自分の農産物を加工してみたい！」又フードライター西村さんから「世界一おいしいトマトのシャーベットを作りたい」の依頼を受けました。この事がきっかけとなり、当施設小林・鳥水指導員の技術と仲間たちの力を結集してお手伝いする事になりました。

事業概要

- 焼菓子、パン、アイススクリーム製造やボールペン組立て作業、EMボカシ製造作業などを通して、社会の一員として自己実現していけるように支援します。『おはようの家』内の店舗スペースである『アイスとおかしとパンのいえ』では、まごころをこめて手作りしたアイススクリーム、焼菓子、やきたてパンなどをご用意しています。とくに栃木県内産の新鮮な牛乳を使ったアイススクリームは、季節限定商品を店頭のみで販売しています。

成果

- 農園団とのゼロからのチャレンジは試行錯誤の繰り返しでした。一年目は開発会議・試作・試食を重ね2年目について農援団スイーツ第一弾の誕生となりました。又、トマトシャーベットの取り組みはプロのシェフの力をお借りし「櫻とトマトのソルベ」が完成しました。現在、販売の準備中です。それぞれの専門性を生かしつつ同じ夢に向かって実現していく喜びを利用者と共に経験しています。
- 企画・製造・販売等プロのノウハウを真近くで学ぶ事が出来、今後も連携して取り組める事となり授産事業に大きなプラスとなりました。
- 試作の段階から仕事として請け負う事ができ利用者への工賃に反映できました。

今後の展望

- 今後、完成した加工品の製造はもちろんの事、販売促進にも協力していきたいと思っています。（プロの販売を学びつつ）
- 利用者の仕事として、有機野菜や果実等の加工技術を生かし「えいぶるの里オリジナル菓子・パン・アイス等の自主製品づくりに取り組んで行く予定です。
- 一般企業・農作業・販売・製造等プロの技術を学んでいく事でさらに利用者の工賃向上を目指します。
- 私達小規模事業所が地域の中で貢献できるものを積極的に進めていく事、又障がいをもつ仲間達の頑張っている姿をしっかりと見せていける事業所でありたいと思います。



事業所より一言

おはようの家の工場の手作りアイスクリームと、えいぶるの里で製造している焼き菓子や焼きたてのパンに加えて、かわいい手芸品も販売しています。緑と四季折々の花々と元気な仲間が、ありがとうございますの気持ちを込めてお迎えいたします。店内には、ほっと一息の美味しいコーヒーコーナーもあります。



本事例の事業所紹介



社会福祉法人 ソフィア会
社会就労センターえいぶるの里

〒323-0003
栃木県小山市東島田2403-2

TEL:0285-22-4561 FAX:0285-22-4581

【地域活性化と地域連携における地域グルメの創出】

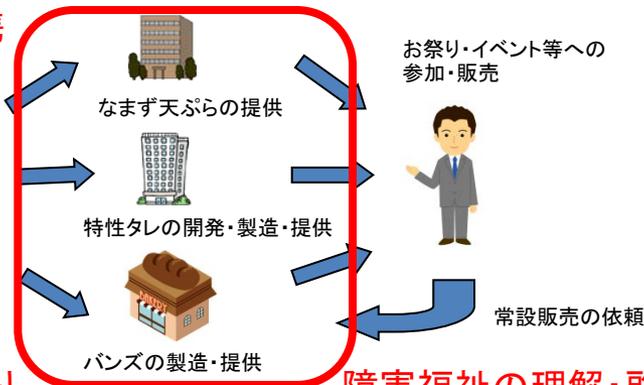
Point



- 館林商工会議所（青年部）との協力関係
- 地元企業とのコラボレーションで地域活性化
- 「なまずバーガー」での地域連携・事業所広報促進と障害者理解の促進

地域連携

商工会議所（青年部）
商品開発・
アイデアの創出



地域づくり

障害福祉の理解・啓発

事業実施のきっかけ、経緯

- 館林商工会議所（青年部）より地元食材を生かした「バーガー」をつくり、広く食べてもらうことで地元食習慣の継承と地域の活性化を図りたいと協力依頼を受け了承する。
- イベントのみの企画販売の予定であったが、イベント販売におけるお客様の要望に応え、常設販売をしたいとの依頼を受け了承しふらっぐ店舗で限定販売を開始する。

事業概要

- 館林商工会議所（青年部）
週末等に行われるイベントや地域のお祭りに「なまずバーガー」を出店販売。
「なまずバーガー」の中心的役割を果たす。
- ふらっぐ（障害福祉サービス事業所）
イベント等の販売に向けなまずバーガーの「バンズ」を焼き提供する。
常設の販売店として営業日に数量を限定して販売する。

成果

- 商工会議所との関係構築・連携強化
- 地元企業・商店との関係構築・連携強化
- 地域におけるふらっぐ店舗の広報と障害福祉についての理解が広がった。

今後の展望

- 地域社会に根ざした事業運営をおこない、自らの運営だけでなく地域（地元企業・商店街）との協力関係を深め協働によりその促進を図っていく。
- 地元の地域食材を生かした商品の開発と販売をおこなう事で地域社会とのつながりを深め、人間関係づくりや社会関係づくりを行っていく。
そのことが地域を活性化し、地域の一員として、自分らしく暮らせることにつながっていくと考えている。



事業所より一言

「なまずバーガー」だけでなく、数多くの地元食材を使って、毎日50～60種類のパンをご用意しています。

障がいがあっても自分らしく働き暮らせる地域づくりを心がけています。

本事例の事業所紹介

社会福祉法人 館邑会 障害福祉サービス事業所 ふらつぐ

(就労移行支援事業・就労継続支援(B型)事業)

〒374-0016

群馬県館林市松原二丁目22-16

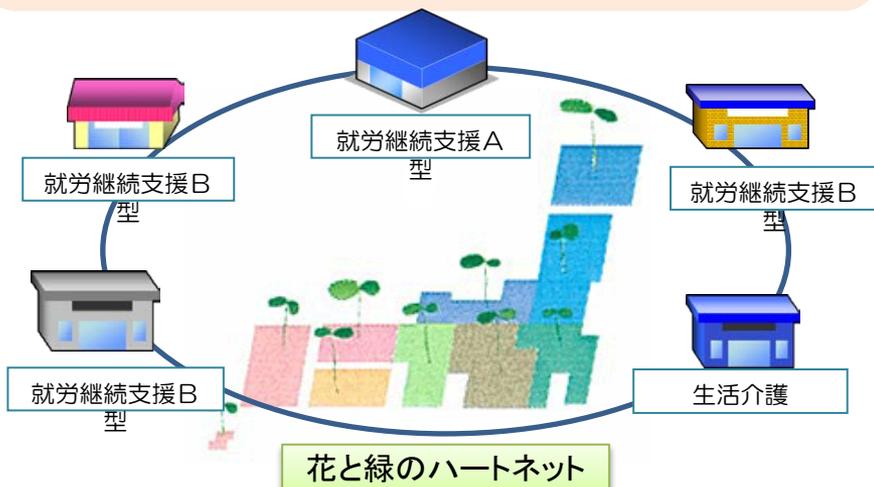
TEL0276-76-7899 FAX0276-76-9877



【障害者就労施設で生産した『花』を 豊かな街づくりに】

Point

- ネットワーク全体で補い合い可能性を広げる。
- 各施設の生産体制をサポートし、一定の品質、安定した生産量を確保。
- 仕事の分業化による施設外就労。



事業実施のきっかけ、経緯

- 障害者を多数雇用している事業所や就労継続支援事業所等の障害福祉施設での仕事の確保について、経済団体や企業も協力すると共に、国や地方公共団体に於いても率先垂範して官公需の発注増を図るため、地方自治法施行令を改正し優先発注での随意契約の対象を、従来の物品のみならず役務の提供にまで拡大して、「発注促進税制」の創設がなされた。
- 更に国会に於いて、障害者就労施設などへの更なる官公需等の発注促進策として、「障害者優先調達推進法」が施行された。

事業概要 (花と緑のハートネット)

- 「花と緑のハートネット」では全国の社会福祉施設で生産した植物を直接お客様へお届けするシステムとなっている。購入に際しても、地産池消、地域からの購入の点から、全国の福祉施設が地域に根ざした販売窓口として展開している。地域で生産しているものは地域で、それ以外のは全国の仲間と連携して販売する。
- 国、地方公共団体及び企業等多様な発注先からのニーズに応える為に、新しい商品情報の提供、安定した品質、数量の確保、納期の厳守、価格の適正さ等が求められるため、インターネット等を有効に活用し、生産管理や技術支援を総合的かつ、一元的に行うことのできる受注組織を設立している。
- 国・自治体・企業・一般園芸愛好家等他分野にわたる発注先からの要望等に応えられる受注組織の一つとして、グランドカバープランツ及び地域特性に適した農園芸植物並びに関連商品の生産・製造・販売・生産管理・技術支援を総合的・一元的に行っている。

成果

- グランドカバープランツ・農園芸植物並びに関連商品の生産・製造・製造管理を一元化し、障害者の就労の場の確保と拡大が実現している

今後の展望

- 現在も農家と会員事業所との連携で仕事を分業化することで、事業所から施設外就労を実施している。この活動を地域の方とも連携し、もっと広く展開していきたい。



本事例の事業所紹介



社会福祉法人埼玉福祉会

〒352-0023

埼玉県新座市堀ノ内3-7-31

Tel.048-481-2181(代)

Fax.048-481-0752

共同受
注窓口



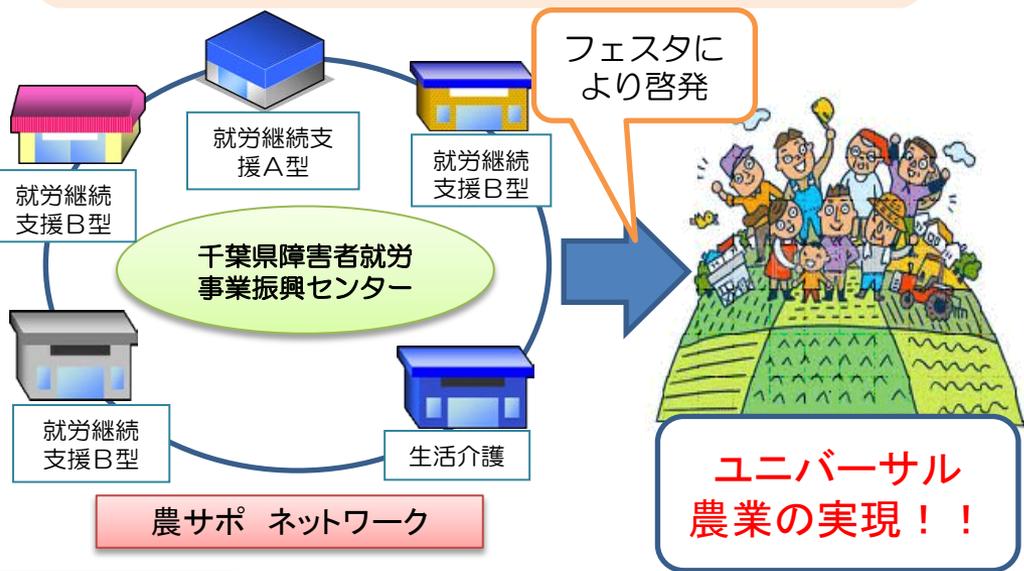
障害者
就農

農業技術のサポートネットワークの形成と フェスタによる障害者就農の促進

Point



- 農サポにより技術支援
- フェスタを企画して県内の意識啓発
- 農業による障害者の働く場の確保・工賃向上



本事例における事業所の役割

千葉県障害者就労事業振興センター

- 振興センターでは障害のある人もない人も、だれもが農業に参加する仕組みをつくることを目指す。「ちばユニバーサル農業ネットワーク（代表 岡田勝氏）」とともに、「農の持つ可能性」「農の価値」を社会的に発信する活動に参画しています。農業にたずさわる多くの施設・事業所の皆様とご一緒に課題解決に取り組んでいる。
- 農業に携わる千葉県内の就労系障害者施設・事業所の皆様を対象に、農業生産及び農産加工品に係わるあらゆる疑問に専門家（ちば農業支援ネットワーク指導員）が農業技術に関する質問に回答している。
- 農業を通じて、出会い、交流し、はたらきあう、新しい農業のかたち「ユニバーサル農業」の考えを広め、農業生産県である千葉県から、「農業の持つ可能性」や「農の価値」を社会に発信するため多くのフェスタを企画している。

本事例における効果

- 農サポの技術支援により就労系障害者施設の農業技術が向上
- フェスタの企画により障害者就農の理解が促進

本事例の背景

- 振興センターによる調査（2010/6月実施）によると、千葉県内で農業を実践している障害者福祉施設・事業所は100を越えており、それらの多くで技術向上と販路の拡大を課題としている。
- 千葉県障害者就労事業振興センターは、『千葉県内の福祉施設の授産活動の活性化と、そこで働く障害者の自立を支援します』というミッション・ステートメントを掲げ、千葉県と県内の福祉作業所や授産施設、当事者団体が協同して2005年9月に設立された。

「千葉県障害者就労事業振興センター」の事業所紹介



千葉県障害者就労事業振興センター
 〒260-0856
 千葉県千葉市中央区亥鼻2丁目9番3号
 TEL：043-202-5367
 FAX：043-202-5368
 E-mail：center@jusan-assei.or.jp

農業技術のサポートネットワークの形成とフェスタによる障害者就農の促進

おいしいたのしい

ちば
Chiba

ユニバーサル
Universal

農業
Agricultural

フェスタ
Festa

2013
2013

出展者募集

●ユニバーサル農業～みんなで関わる農業

さまざまな人々が農業を通じて、出会い、交流し、はたらきあう、新しい農業のかたち「ユニバーサル農業」の考えを広め、出会いの場を提供するために「ちばユニバーサル農業フェスタ」を企画しました。農業生産者である千葉県から、「農業の持つ可能性」や「農の価値」を社会に発信しましょう。

●メイン会場
四街道市文化センター
センター前広場・駐車場（車での販売可）および室内
雨天の場合：地下駐車場・屋内で開催

10月26日 土 10:00～15:00

出展できる団体
「ユニバーサル農業フェスタ」の趣旨に賛同して参加する団体（福祉施設、NPO、農業関係者、生産者など）

出展内容
農作物、農産加工品、福祉施設製品等の販売、ワークショップ、パネル展示等

出展料
2,000円（ただし売上高1億円以上の事業者は、10,000円）

●出展説明会＆交流会
8月28日（水）開始14:00 終了16:30
四街道市文化センター

●サブ会場
西千葉 第三土曜市（千葉市稲毛区）
9月21日（土）10月19日（土）
御伊勢公園（佐倉市）
9月28日（土）
柏の葉マルシェコロール（柏市）
10月5日（土）
ホテルメイプルイン幕張（千葉市花見川区）
11月9日（土）

※開催内容・出展料は、各会場の規定によります。

夢 かなえます。
ちば農業支援ネットワーク

NPO法人

右は農業支援ネットワークとは

農業経営の安定、農業の担い手育成、食に対する理解の促進等のために、技術者支援がそのノウハウを提供して、地域の農業振興の支えを目的とする組織です。

活動内容

- 1 農業の理解促進と農業支援 農業経営の支援、地域の農業振興支援、農業・食に関する実証、安全・安心な栽培に関する支援、食農体験のコーディネートや活動支援、市民農園などの栽培技術指導、ガーデニング、菜園緑化などの技術指導。
- 2 就職希望者等の農業の担い手支援 就職希望者の経営アドバイスと技術指導、経営・農村生活に関するアドバイス、農業ボランティア養成に必要な技術指導。
- 3 農業の技術開発支援 農業技術に関する調査研究、情報の提供。
- 4 農村女性の活動支援 地域交流や組織活動の企画・運営の支援、地域農産物の活用促進に関する技術指導や情報提供、視察研修等の企画・運営。

お問い合わせ先
特定非営利活動法人 ちば農業支援ネットワーク
〒260-0013 千葉県中央区中央4-10-12 農業会館4階
電話 043-310-3271
FAX 043-310-3273
Email: rpoaar@oasis.com.ne.jp



農サポ 障害者福祉事業所への農業技術支援事業
振興センターの経営支援
特定非営利活動法人千葉県障害者福祉事業所センター
〒260-0013 千葉県中央区中央4-10-12 農業会館4階

農業のことをもっと知りたい！ 農業に取り組む障害者福祉事業所を継続して支援。経験豊かな農業技術指導員による、地域・品目に応じた生産技術の出張指導。NPO法人ちば農業支援ネットワークの協力のもと、ユニバーサル農業を実践します。

●目的 農業にかかわる障害者福祉事業所への農業生産技術の継続した指導、また付加価値を高める加工及び販売等の提案により安定した生産を確保し、利用者の工賃向上に寄与する。
●対象 千葉県内の農業にかかわる障害者福祉事業所。応募数が多い場合、就労支援系事業所を優先する。
●協力 特定非営利活動法人 ちば農業支援ネットワーク
●期間 2年程度

●実施要項

- 1 農業生産技術研修：経験豊かな農業技術指導員が、現地（応募事業所）に出向き、地域・品目に応じた生産技術の指導を行います。作物選定から加工販売まで提案、協議しながら事業所の生産活動を支援します。
- 2 農産加工品相談：ジャム、米粉、干し芋、豆菓子等々の農産加工品の加工、販売の相談。
- 3 期間：1ターム＝播種～収穫（必要に応じて、作物選定、収穫後の加工販売等の相談にも応じます）
- 4 出張回数：5回/1ターム（4月～翌年3月までの間に品目に応じて訪問指導）
- 5 時間：2時間程度/回
- 6 募集：10事業所（地域・品目に応じた指導員を派遣します。地域・品目に対応する指導員がない場合は応じられないこともありますので、あらかじめご了承ください）
- 7 費用：会員1,000円/回、非会員2,000円/回及び指導員の交通費30円/kmただし、5回を越えた場合、5,000円/回を事業所にご負担いただきます。

●お問い合わせ先
振興センター：CENTER メール center@san-kassei.or.jp
●お問い合わせ先

■【2013年度 農サポ（農業技術支援事業）】利用施設募集
農業のことをもっと知りたい！ 農業に取り組む障害者福祉事業所を継続して支援します。「農サポ」とは、経験豊かな農業技術指導員による、地域・品目に応じた生産技術の出張指導のことで。NPO法人ちば農業支援ネットワークの協力のもと、ユニバーサル農業を実践します。

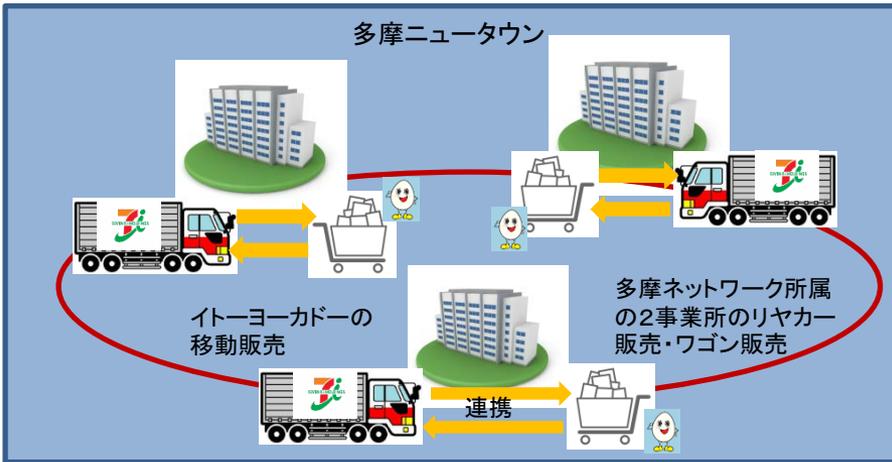
◆目的：農業にかかわる障害者福祉事業所への農業生産技術の継続した指導、また付加価値を高める加工及び販売等の提案により安定した生産を確保し、利用者の工賃向上に寄与する。◆対象：千葉県内の農業にかかわる障害者福祉事業所。応募数が多い場合、就労支援系事業所を優先する。◆協力：特定非営利活動法人 ちば農業支援ネットワーク
◇支援内容：①農業生産技術研修：経験豊かな農業技術指導員が、現地（応募事業所）に出向き、地域・品目に応じた生産技術の指導を行います。作物選定から加工販売まで提案、協議しながら事業所の生産活動を支援します。②農産加工品相談：ジャム、米粉、干し芋、豆菓子等々の農産加工品の加工、販売の相談。◇期間：1ターム＝播種・植え付け～収穫（必要に応じ、作物選定、収穫後の加工販売等の相談にも応じます）◇出張回数：5回/1ターム（4月～翌年3月までの間に品目に応じて訪問指導）◇時間：2時間程度/回◇募集：10事業所（地域・品目に応じた指導員を派遣します。地域・品目に対応する指導員がない場合は応じられないこともありますので、あらかじめご了承ください）◇応募期限：4月15日（月）◇費用：会員1,000円/回、非会員2,000円/回及び指導員の交通費30円/kmただし、5回を越えた場合、5,000円/回を事業所にご負担いただきます。

カテゴリ【8】その他

大手量販店と地元事業所が移動販売でコラボレーション。高齢化の進む多摩ニュータウンを救う。

Point

- 地域の買い物弱者対策事業を民間企業と共同で実施
- 社会貢献、利便性の向上を目指す取り組み意向で一致
- 同じ場所・時間の販売で相乗効果が期待できる



事業実施のきっかけ、経緯

●多摩市内の事業所ネットワーク「たまげんき」では、「高齢化の進む多摩の街を元気にするとともに、利用者の工賃向上を図る」ことを目的に、共同販売事業等を実施してきた。平成25年度は、東京都の助成を受け、たまげんきに所属する事業所2ヶ所が、多摩ニュータウンの買い物弱者支援事業を企画し、準備を進めていた。

●同時期、同エリアで(株)イトーヨーカ堂（以下、イトーヨーカドーとする）が専用車を用いた移動販売事業「イトーヨーカドー あんしんお届け便」サービスを開始することがわかり、連携しての販売を提案した。多摩市の協力も得て実現に至った。

事業概要

- 平成26年1月より、多摩ニュータウン内を巡回し、販売活動を行う「イトーヨーカドー あんしんお届け便」に事業所が同行し、同じ時間・場所で自主製品や仕入れ商品の販売を行う。
- イトーヨーカドーは、PB商品をはじめとする生活必需品（生鮮品、日配品、調味料、生活雑貨等）を販売。一方、事業所は、高級豆腐、豆腐加工品、焼き菓子、惣菜、野菜等を販売。品揃えが増えることで、お客様に買い物の楽しさを提供している。

成果

- 事業所は、イトーヨーカドーの販売員から、商品、陳列、販促等に関するアドバイスを受けることができています。
- 販売トラック到着に合わせ、リヤカーが団地内を巡回。引き売りのラップで集客の促進を図っている。地域住民に対する認知度が徐々に上がってきており、今後の売上増が期待できる。

今後の展望

- 現在は、たまげんき所属の2事業所が実験的に販売を行っているが、今後は参加事業所を増やし、「たまげんきキャラバン」と企業との共同販売も提案・展開できればと考えている。
- 販売コストを考えると、1ヶ所あたりの売上拡大が欠かせない。高齢者を中心とする地元住民の買い物の一手段として認知度を上げ、定着を図りたい。



イトヨーカドーの移動販売車。URの許可を得て団地内の駐車場で店開き。



空き店舗が目立つニュータウン内の商店街



引き売りしながら、ヨーカドーの移動販売車到着を知らせる



販売車の様子



事業所の販売



ヨーカドーでの買い物後、事業所のリヤカーに立ち寄り、豆腐を購入する女性客

市の協力を得て、イトヨーカドーさんと一緒に販売する体制ができたことを嬉しく思います。販売のプロから学びつつ、こちらでも協力できることをしながら、地域のお客様に喜ばれる販売システムにしたいです。

本事例の事業所紹介

特定非営利活動法人障害者自立支援センター多摩

ワークス多摩(工房れすと)

〒206-0025 東京都多摩市永山4-2-3-103

TEL 042-356-3601 FAX 042-356-3601

ワーカーズコレクティブ風(ふう)

〒206-0011 多摩市関戸4-72 ヴィータ・コミュニーネ 7F

TEL 042-355-2107 FAX 042-355-2107

多摩市障害福祉ネットワークたまげんき

〒206-0011 多摩市東寺方1-16-3

TEL 042-372-3015 FAX 042-372-3015 (ちいろばの家)

【農業法人内の作業請負】

Point

- 利用者へ除草、収穫、洗浄、袋詰め作業などの単純作業を委託
- 生産（圃場）での作業は施設外就労
- 農業法人と事業所で相互補完的な関係



事業実施のきっかけ、経緯

- 農業法人内で障害者を雇用していたのがきっかけ。雇用していた障害者が高齢化し一般就労が困難になった。合わせてフルタイムの就業が困難になり、体力や状況に合わせた受け入れ先として開始した。
- 判断が簡単な作業、単純な作業を委託している。「全部収穫する」、「全部切る」、「全部運ぶ」などの作業がある作物を農業法人が用意する。

事業概要

- 農業法人は施設外就労を受け入れ、一般就労に向けた訓練の場を提供する。
- 農業法人は生産活動を単純化する。作業の繁忙を失くすことで利用者が作業しやすい環境をつくる。
- 作業には安全性を高める。雨天時や危険箇所、機械での作業には十分配慮する。
- 事業所は利用者に対しサポートする人を配置し、利用者の就労に向け計画的に訓練を行う。

成果

- 利用者の事業所に通う時間や日数が増えている。
- 一般就労に向けA型事業所でも働ける能力を開発された利用者も出てきている。
- 利用者の中に資格の取得訓練や車での通勤など今までできなかったことが、できるようになっている。
- 工賃が全国平均より高い。

今後の展望

- 農業法人は農産物の品質の向上と事業所が利用しやすい作業をつくり、単純化することで拡大が見込める。
- 事業所は利用者の農業法人内での就労や他の一般就労に向け資格の取得など訓練を実施していく。



大根の収穫



大根の洗浄



大根の箱詰め



人参畑での除草

事業所より一言

- 虹の橋はその人の能力に合った仕事を用意することに努めています。
- 働くことで社会の一員としての自覚を育て、生きる力を養うことを事業としています。

本事例の事業所紹介



株式会社 虹の橋

〒238-0103

神奈川県三浦市南下浦町金田1877

(事業所写真)

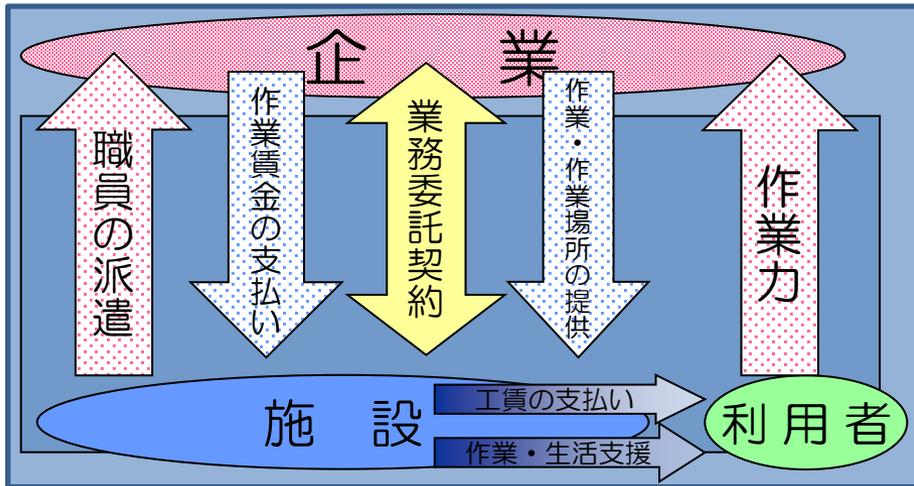
TEL 046-888-1017 FAX 046-888-1017

カテゴリ【4】企業連携

法人全体で地元企業に多数の施設外就労先開拓し、工賃アップとともに就労訓練の場を提供

Point

- 法人として多数の施設外就労先企業を開拓している
- 就職へのワンステップとしての施設外就労
- 企業と対等な関係を結ぶ事業所の体質が高工賃を実現



事業実施のきっかけ、経緯

● 制度が確立される以前から、地域の企業の協力のもと、企業工場内での生産工程の一部を法人の職員と利用者が請け負っていた。この企業内での実践がきっかけとなり、法人として障害者が就職するための支援を本格的に展開することとなった。以降、法人として積極的に施設外就労を取り入れている。

● グリーンハウスとしては、長年下請け作業を請け負っていた企業に対して、何年にもわたって施設外就労の双方のメリットを伝え、打診し続けた結果、施設外就労の機会を得ることができた。

事業概要

- 法人内の5事業所で、計11企業へ施設外就労を行っている。なかでもグリーンハウスでは、地元の有力企業の下請け業務を請け負っている清水一産業株式会社へ週5日間、職員1名に対して利用者4名で施設外就労を実施。
- 梱包作業や商品の圧着前作業など30~40種類の仕事がある。職員が現場から仕事の切り出しを行うことで、作業の幅が広がっていった。
- 業務委託契約を結ぶ際には、利用者の業務フォローを職員が行うことを伝え、最低賃金を基準に受注額の交渉を行う。契約後も、出来高次第で値交渉を重ねていく。

成果

- 事業所の平成24年度の平均工賃は、28,394円。施設内時給210円に対して、施設外就労では時給300円支給している。法人の設立当初より、企業から仕事を請け負い、高い品質や生産性を重視してきたため、施設外就労においても企業から高い評価を得ている。
- 施設外就労を高工賃の手段として捉えるだけでなく、就職に向けたアセスメント及び訓練の機会としても活用している。昨年度の法人全体の就職者35名のうち、約半数は施設外就労を経験している。

今後の展望

- 長期に渡って施設外就労に携わっている利用者もいるため、就職を視野に入れたサポートを続けていきたい。
- 企業数を増やすことで、より多くの利用者に関われるようにしたい。



職員が検品作業をする様子



作業前の資材



作業をスムーズに行うための工夫



作業の様子

事業所より一言

すずらんの会では、障害のある人たちの自立を支援する様々な活動を行っています。法人設立以来、活動の柱として、障害のある人たちが様々な形で仕事に就き、社会的な自立が叶うように支援をしています。

本事例の事業所紹介



社会福祉法人すずらんの会
グリーンハウス
〒252-0328
神奈川県相模原市南区麻溝台7-1-7

TEL 042-749-8881 FAX 042-749-8808

再資源化

工賃向上

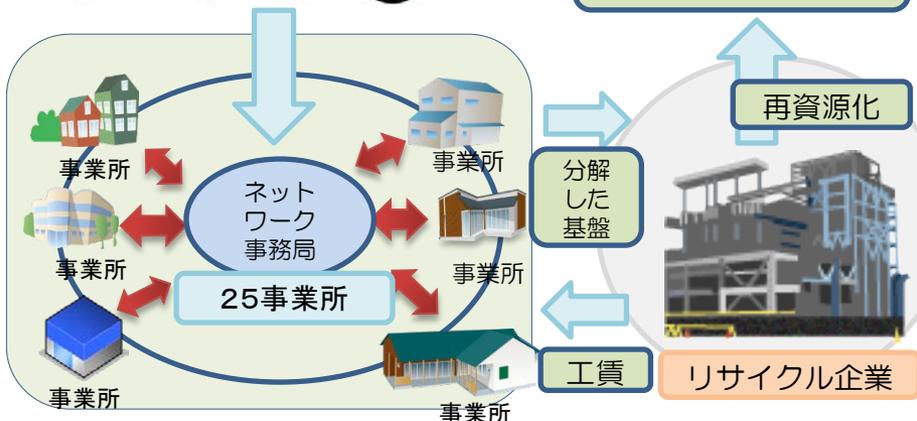
パソコン基盤から鉱物を再資源化するリサイクル！ネットワークを構築し全体で工賃向上

Point

- リサイクル事業による工賃向上
- 重度障害者の福祉的就労・やりがいの確保
- ネットワークを組み県内25事業所で取り組む



再資源を活用し新たな電化製品製造



本事例の背景

- 2012年3月に「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律案」が閣議決定されたのを受けて、全国の市町村で次々と「使用済小型電子機器の回収実験」が動き出した。
- 新潟市も市内に12箇所の回収拠点を設置し、家庭の使用済家電（携帯電話・デジタルカメラ・ビデオカメラ・CD&MDプレーヤー・ゲーム機・カーナビ・電卓・電話機等）を回収するという取り組みを始めた。
- 数万円で買った金属部品のくずも、きちんと仕分けするだけで倍以上の価値ある商品に変えることができる。

本事例おける、それぞれの役割

新潟県基盤ネットワーク

- スケールメリットを有効に活用し、事業所が解体した基盤を、まとめて企業に納入する（そのことで、より高い価格で販売する）。
- スケールメリットを生かし、家庭用小型電気器機器を一括して購入し、安定した作業量を各事業所に提供する。
- より広域において、本事業が展開されるよう普及活動を行う。

参画する事業所

- 小型電気機器の解体作業を行うため、施設内の利用者の支援にあたる。また、機器等の解体作業を責任を持って行う（各事業所が取り組める範囲において）。

本事例における効果

- ネットワーク全体で工賃の向上が図られる。
- 工賃例：NPO法人のんぴーり青山（就労継続B型）2万円～3万円
- 重度の知的障害者も取り組める。
- 例：重度の自閉症である利用者が、本作業は集中して取り組んでいる（解体作業に面白味がある）

「基盤ネットワーク」会長の事業所紹介



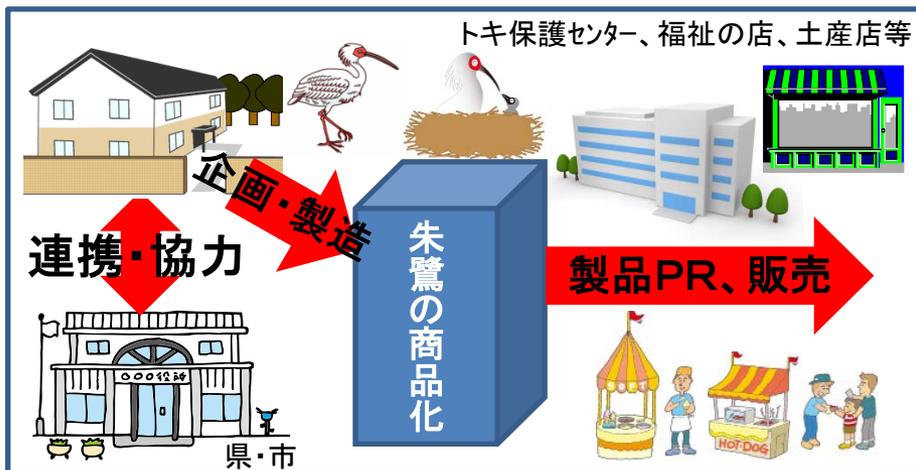
つどいの郷
〒949-3112
新潟県上越市大潟区九戸
浜388-8
TEL.025-534-3972

【カテゴリ4】関係団体と協力した商品開発

【佐渡観光の重要な資源である「朱鷺」を活かした授産品の開発による工賃アップ】

Point

- 観光の目玉である「トキ」の商品化
- 関係機関と連携した地域へのPR活動
- 地域をPRすることによる地元産業や観光業の活性化



事業実施のきっかけ、経緯

●佐渡市では観光の重要な資源の一つとして、『朱鷺』をアピールしており、「人工繁殖、雛の誕生、自然界への放鳥」と順調に佐渡観光の目玉となっている。そうした中で、当施設も利用者の工賃アップを目指して朱鷺関連グッズを開発して販売することとした。

事業概要

- 県（地域振興局）、市の協力による授産製品のアピール及び催し物での販売。
- トキ保護センターや市内の土産店での委託販売。
- 地域及び各種市民団体が主催する催し物等での出店販売。
- 県社会福祉協議会が運営する「福祉の店」での委託販売。
- 施設見学者（団体）への販売。

成果

- トキ関連の手工芸製品の売り上げが倍増し、工賃アップへと繋がった。
- 「島外観光客からお土産で買った」「広報（テレビ放送、法人ホームページ、県授産ホームページ等）を見て購入したい」など島外からの注文が入るようになった。
- 佐渡市や県（地域振興局）からアピール（施設及び授産製品）の機会（催し物等）を以前に増して設定して貰えるようになった。

今後の展望

- トキ保護センターなどの観光客が立ち寄る場所では、順調に販売実績が上がっているが、販売実績としては島内での販売（各種催し物等において）が主なものであり、販売の対象者も島内の一部地域に限られ、同じ製品ばかりではいずれ売れなくなっていく事が予想され、常に新商品の開発が求められているものの、なかなか良いアイデアが浮かんでこないのが課題となっている。

トキストラップ



トキ布巾



トキマグネット



トキぼんぼん



トキのしおり(大)



トキコースター



トキハット縦



事業所より一言

まつはらの家は穏やかな真野湾に面した海岸に位置しており、佐渡の特産である裂き織りを使った製品や、朱鷺関連のかわいいアクセサリ、縁起物のマスコット等、利用者と一緒に日々新商品の開発に取り組んでいます。

本事例の事業所紹介



社会福祉法人 佐渡福祉会
障害福祉サービス事業所 まつはらの家
(就労移行支援事業、就労継続支援(B型)事業)
〒952-1313
新潟県佐渡市八幡町303番地2

TEL:0259-52-4744 FAX:0259-52-4566

トキ人形

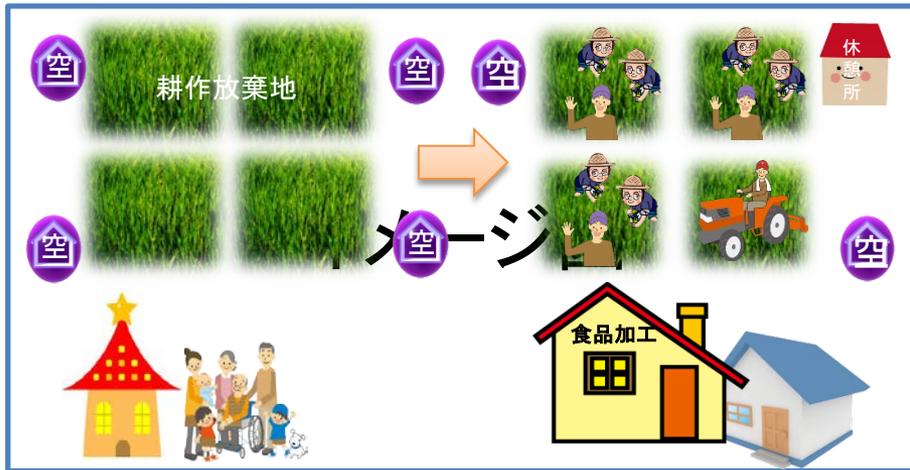


【カテゴリ1】農業との連携

豊かな地域生活と地域農業への貢献を実践する
障害者就農の推進

Point

- 福祉施設が地域農業の担い手として認識される
- 障害者の社会貢献と地域参加が地域から認められる
- あらゆる能力幅の利用者が就業できる



事業実施のきっかけ、経緯

- 日本全体の農山漁村では過疎化・高齢化が進行しており、農業の担い手不足による、耕作放棄地の増加が深刻な問題となっている。
- 本会は、中山間地域に位置する無認可の小規模作業所を運営していたが、障害者自立支援法施行を契機に利用者が増加。指定障害福祉サービス事業所としての安定性を活かし、農場の規模拡大を進める内に、地域農業の担い手としての認識が地域内で形成され始める。

事業概要

- 農産部門では減農薬・無農薬コシヒカリ、農薬・化学肥料を使用しない野菜作りを行う。平成25年度実績、水稻230アール、畑作150アール。
- 食品加工部門では自家栽培コシヒカリを100%使用した団子、山菜や漬物加工製造、予約制の野菜レストラン「山の食堂・農歩」等を運営する。
- 富山環境整備（株）の下請け作業としてリサイクル作業や清掃作業を行う。

実践と成果

- 本会が、耕作放棄地を農地として利用することで、障害者の社会貢献と地域参加が地域から認められ、必要とされる存在であると実感できる。
- あらゆる能力幅の利用者が就業できる点を活かし、触法障害者の支援を実践している。

今後の展望

- 認定農業者資格を取得する。
- 栽培品目を収益部門と障害者の就労支援重点部門に区分し、農業経営と支援を両立させ、利用者工賃の向上につなげる。
- 増加する耕作放棄地及び後継者不在農地の受託規模を拡大する。



山の食堂・農歩



惣菜班



農業班



菓子班

事業所より一言

①経済的自立・向上、②生活スキルの向上、③社会参加スキルの習得、④情緒の安定と健康管理、⑤地域・国際貢献、以上の5つの方針のもと、障害を持つ人が、人として成長していけるように支援をしています。

本事例の事業所紹介

特定非営利活動法人愛和報恩会



〒939-2417
富山県富山市八尾町西川倉23番地1

TEL 076-455-0597 FAX 同左